

祈りの友へ

教会の主、イエス・キリストの御名を讃美します。

アドベントに入りました。しかし、一瞬とは言え、時計が巻き戻されたような不思議な暖かさです。皆様のところはいかがでしょう。さて、このたびも皆様のとりなしと尊い支援金に心から感謝を申し上げます。主にある特権のゆえと受け止め、知恵を尽くして本校の働きに取り組みたいと思います。

先回に続き<なぜ C-BTE なのか>を付記します。

## < なぜ C-BTE なのか > その 2 「C-BTE 五つの基本概念」

先回、カナダのモントリオールにある神学校「SEMBEQ」との出会いから「C-BTE パラダイム」に導かれ、BILD とのパートナーシップに導かれたことについて紹介しました。そして 2004 年度をもって SBS 最後の卒業生を送り出し、2005 年に学校スタイルの神学教育から「教会主体の神学教育・指導者育成」にパラダイム転換を決議しました。

あえて「パラダイム」を用いる理由は、一般化された意味のパラダイム、つまり時代に共通の思考の枠組み、支配的なものの見方を解し、同時に自分たちの現実を知り、その上で改めて聖書の意図に注目するためです。

一千年のキリスト教の有り様を大きく変えたプロテスタント宗教改革運動はその典型であり、そのパラダイムは「聖書のみ、信仰のみ」の二大原理です。その背景には大局的な時代全体のパラダイム、再生、復元を意味する「ルネサンス」の源泉志向がありました。

結果的に様々な教派、ルーテル、リフォーメド、アングリカン、メソジスト、バプテスト、ブラザレン等々が生まれ、特定の共同体に属する者としての信仰告白、価値観、行動規範を共有し継承しています。宗教改革時代以降の大局的な時代全体のパラダイム、啓蒙時代、近代、そしてポストモダンと続き、その時代の影響を受けた聖書理解も生まれています。その大局的なパラダイムに立ちつつも各教派毎の伝統や制度が生まれ、その伝統から個別の習慣や振る舞い、装いなどが生まれ、大局から個別にいたるパラダイムが確認されます。

聖書に戻るという視点で明らかにされた「C-BTE パラダイム」、これは目新しいものではなく、その後の時代のパラダイムの影響前の聖書の規範、キリストと使徒たちの手法に戻ることなのです。

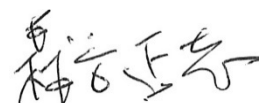
パラダイムの五つの基本概念、重要な概念に基づく論拠について

1. 「C-BTE」(教会主体の神学教育): 以下の四つの概念は、なぜ「C-BTE」が重要であるか、その理由を解き明かす上で、とても重要です。
2. 「委任」という考え方
3. 「建て上げ」という考え方
4. 「ハビタス」としての神学(神の知識と知恵を追求することで手に入れた習慣がその人の内性、気質、振る舞いとなるということ)
5. 聖書の「基本原則」

(次回に続く)

2018年12月4日

C-BTE Japan リソースセンター  
仙台バプテスト神学校



校長 森谷正志